「日々の理科」（第 605 号） 2016（H28),-3,-3

「ムササビを飛ばそう（１）」

お茶の水女子大学附属小学校　田中　千尋

高尾山は東京都にあって、八王子という大きな街の近くにありながら、多様な生態系を保持している、不思議な山である。新宿から山麓の高尾山口駅まで、特急でわずか 50 分で行けるので、観光客も非常に多い。にもかかわらず、珍しい動植物に出会えるのだ。

高尾山の人気者の一つが「ムササビ」である。夜間に樹木から樹木へ滑空する、あの不思議な獣だ。そのムササビが高尾山にはたくさんいるらしい。もちろんムササビは夜行性なので、ハイカーや遠足の子どもたちが簡単に出会えるというわけにはいかない。

「ムササビ」　これは北軽井沢に設置した、フクロウ専用の巣箱に入った個体。残念ながら営巣はしなかったが、こういう狭い空間を巣にする動物だ。夜行性なので目が大きい。（フクロウ生中継カメラの画像）

私は一度だけ、北軽井沢の山荘裏庭で、ムササビの滑空を見たことがある。思ったよりも高い樹の太い枝から、別の樹に滑空していた。最初はフクロウかと思ったが、長い尾があって、かなり大型だったので、ムササビとわかった。

今回の２年生の遠足には、保護者ボランティアの方にたくさんご参加いただいた。その中に、「自然観察指導員」の資格を持ったお父様がいらして、高尾山の自然について、いろいろとお話して下さった。大変有難いことだと思った。

これは「モモンガ」と「ムササビ」のちがいを説明してもらっている子どもたち。あらかじめ、このような実物大の手作りの教材まで用意してくださった。

これはムササビが食べたあとの樹木の葉である。私には単に破れた葉にしか見えないが、専門家が見ると、ムササビの食痕とわかるのだそうだ。登山道で拾ったという糞も見せてもらった。ムササビは基本的に植物食なので、ウサギの糞ようにコロコロしていて、あまり臭くない。ムササビの姿こそ見えないが、フィールドでこうした実物を使った活動は、とてもインパクトが強い。子どもたちも興味津々であった。（つづく）